

TOC実践事例発表

事例発表①	思考プロセスを応用した TEPCOグループの ITシステム開発整流化への取組（QCD改革）	株式会社テプコシステムズ コンサルティング・ソリューション推進室 室長付（業務変革推進担当） 矢口 博
		プログレッシブ・フロー・ジャパン株式会社 代表取締役社長 工藤 崇

TEPCOグループが取り組んでいるQCD改革の取り組みと、その裏に使われているTOC流のアプローチ、具体的には思考プロセスを応用して取り組んだ事を発表します。また、上流工程（要求定義領域）およびDXの取り組みへの応用についての全体感とその成果について簡単に紹介ご紹介したいと思います。

事例発表②	電子部品製造装置に対する 研究開発活動における 技術マネジメントの革新	株式会社出雲村田製作所 生産技術開発2部 生産技術1課 マネージャー 板倉 正和
-------	---	--

村田製作所は電子部品の開発・製造・販売を行っており、製造装置も内部で開発しています。製造装置の研究開発効率を上げる事は、経営の為に非常に重要です。CCPMをベースとした製造装置の研究開発活動に適した“技術管理マネジメント”を導入しました。2023年10月開催のTOC InnovationSummit2023での発表内容を紹介します。

事例発表③	日立が推進するDXにおける TOC思考プロセスを活用した 上流エンジニアリング	株式会社日立製作所 インダストリアルデザインビジネスユニット トータルソリューション統括本部 技師 高山 友香
-------	---	--

日立ではお客様のDX推進を支援するために、TOC思考プロセスを活用した上流エンジニアリングを推進しています。その中で、プロジェクトの目標と課題及びその実現手段がうまく設定できず、活動が思うように進まないことに悩まれるお客様に出会う場面が多々ありました。こうした場面に直面するお客様に対し、CRTやFRTを活用したアプローチ方法のご紹介とその有効性を実践事例をもとにご紹介します。

事例発表④	超変動型プロジェクトのマネジメントを支える 仮想バッファとバーンアップチャートの 活用戦略	オムロン株式会社 技術・知財本部 ロボティクスR&Dセンタ プロジェクトマネジメント1グループ 長 技術専門職 西山 哲人
		オムロン株式会社 技術・知財本部 ロボティクスR&Dセンタ プロジェクトマネジメント1グループ 高瀬 志保

提案する仮想バッファマネジメントは、超変動型開発における不確実性に対処する新たな仕組みです。これは、CCPMのPJバッファの概念を応用し、個別タスクの見積りに安全余裕を残しながら、PJバッファを仮想的に計算・管理します。変動性が高く、順不同のタスクにも適用可能で、不確実性の効果的な管理が可能となります。これにバーンアップチャートと合わせて状況を可視化し、より効果的なマネジメントを実現します。

TOC実践事例発表

事例発表⑤	コミュニティの中で使ったミステリー分析	AJS株式会社／全体最適の行政マネジメント研究会 ／教育のためのTOC日本支部 竹ノ下 知子
-------	---------------------	--

NPO教育のためのTOC日本支部（TOCfE Japan）設立10周年のグッズを制作してリリースしてみたら、反響が大きく想定していたよりも早くたくさんの方の手に届けることができました。その理由をコミュニティの皆さんの知恵を借りてミステリー分析したので発表します。また、NPO活動やコミュニティ活動、友人知人の相談に乗るときにTOCのツールを使った事例もご紹介します。

事例発表⑥	続・レイヤー0を攻略する ～ 組織変革を阻む最大の要因とは何か？ ～	たまサポートサービス 代表 柴橋 学
-------	---------------------------------------	--------------------------

TOCシンポジウム2019では「レイヤー0を攻略する～抵抗の6階層へ挑戦するあなたへ～」と題して、思考プロセスを始められない・思考プロセスが機能しないといった場面についての対処法を考えてみました。あれから4年。私は4年前のレイヤー0の内容には、不足している部分があることに気が付きました。それは、組織が変革することを妨げる、最大の要因とも言えるものだと考えています。今回は以前発表した「抵抗の6階層：レイヤー0」について、私の実体験をもとに「レイヤー0-0」を追加したいと思います。

事例発表⑦	不確実性に対処するプロジェクトマネジメント ～新製品開発の事例～	株式会社小松製作所 開発本部開発改革室 室長 向島 美香
		株式会社小松製作所 開発本部開発改革室 主務 安井 拓也
		プログレッシブ・フロー・ジャパン株式会社 プロジェクトディレクター 樋尾 起年
		ケンブリッジ・テクノロジー・パートナーズ株式会社 ディレクター 梅澤 次郎
		ケンブリッジ・テクノロジー・パートナーズ株式会社 シニアコンサルタント 芦澤 万里音

製造業の新製品開発は次々に新しいことに取り組む必要があり、不確実性が高く、様々な課題があるものである。開発で遅れが発生してしまうのも無理はない……というのは、実は間違った常識ではないだろうか？本発表では、大規模な開発組織におけるCCPM導入の事例を通して見えてきた新製品開発をマネジメントするにあたっての課題と秘訣を、具体例を交えながら3社のパネルディスカッションによりお伝えします。

TOC実践事例発表

事例発表⑧	メディアテックにおける T O Cによる継続的業務改善活動	株式会社メディアテック ITマネジメント事業部 ECM課 課長 仁井 亮太
		共栄エンジニアリング株式会社 ビジネスサポート部 課長 改喜 健一
		共栄エンジニアリング株式会社 ビジネスサポート部 増野 祐樹
<p>メディアテックでは全社でTOCに基づいた改善活動を実施しています。その中で大和ハウスの土地購入の稟議に添付する土地の過去の履歴の調査報告書のLTを10日から7日にした一連の改善について報告させていただきます。継続的な改善活動の中で5フォーカスステップがどう起こっていくのかをお話させていただきます。</p>		